

9月1日は『防災の日』です

特集

取り組みましよう 地震対策



昨年の総合防災訓練の様子

●地震の揺れと想定される被害

震度0	人は揺れを感じない。
震度1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
震度2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。
震度3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が音を立てることがある。
震度4	眠っている人のほとんどが目覚まし、部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。
震度5(弱)	家具が移動したり、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることもある。
震度5(強)	タンスなど重い家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度6(弱)	立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなる。
震度6(強)	立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、戸がはずれて飛ぶ。
震度7	自分の意志で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。

「いつ起きてもおかしくない」といわれている東海地震、岐阜県独自の調査によると、土岐市内の一部地域では、震度6弱(左表参照)の激しい揺れも予測されています。

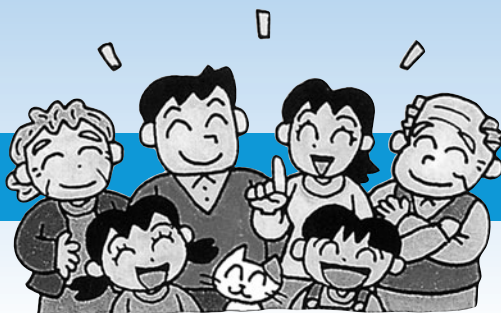
九月一日は「防災の日」です。いま一度、地震対策について考えてみませんか。



特集

取り組みましょう

地震対策



日本に地震の安全地帯はない

地震は、いつ、どこで発生するか分かりません。最近では、七月下旬に宮城県北部で連続地震が発生し、多くの住民が被災しました。

このような大規模地震が発生したとき、被害を最小限に食い止めるは、一人ひとりが慌てずに、適切な行動をとることが重要です。

そのためには、皆さんが日ごろから地震について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう、心構えを身に付けておきましょう。

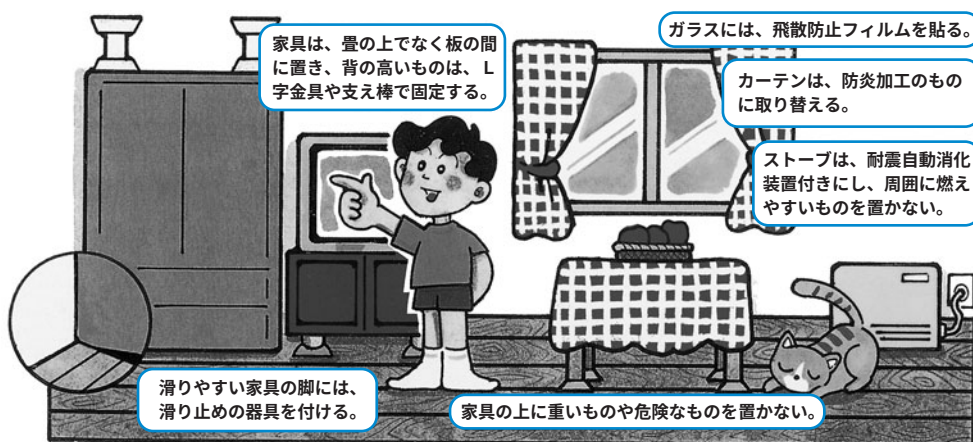
家族会議を開こう

いざというときに最も頼りになるのは、やはり家族です。月に一回程度、家族そろって防災について話し合ひましょう。

(1) 家族一人ひとりの役割分担を決めましょう

▼消火器、救急医薬品、非常食などを誰が点検しておく

家の中の安全対策



家具と壁・柱の間にすき間があると倒れやすいので、板などを差し込んで、寄りかかるように固定する。

逃げ場となる安全な空間をつくっておこう

- 家具は、人の出入りの少ない部屋にまとめて置く。
- 避難時の通路となる玄関や廊下などには、家具や荷物は置かない。
- 寝室、お年寄りや子どものいる部屋には、大型の家具を置かない。

か？

▼避難するとき、誰が何を持ち出すのか？

▼火元を誰がチェックするのか？

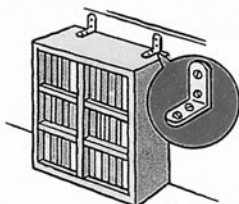
▼幼児や高齢者の避難補助の

役割分担は？ など

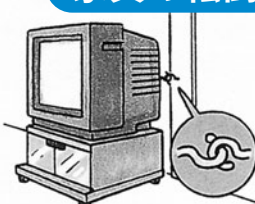
(2) 家屋の危険箇所をチェックしましょう

私たちができる最も手軽で有効な地震対策は、家具の転倒・落下などの防止です。

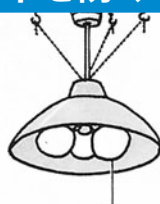
家具の転倒や落下を防ぐポイント



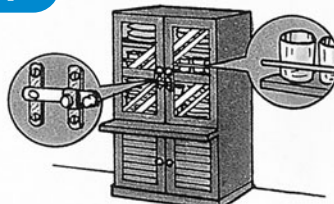
タンス・本棚 L字金具や支え棒などで固定し、2段重ねタイプの場合は、つなぎ目を金具で連結する。衣類や本は、重いものを下に、軽いものを上に置く。



テレビ 家具の上などは避け、低い位置に固定して置く。上には水槽など水の入ったものを置かない(割れると感電事故や故障の原因に)。



照明器具 1本のコードでつるすタイプの場合は、鎖と金具を使って数カ所止める。蛍光灯は、蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



食器棚 L字金具や支え棒で固定し、棚板に滑りにくい材質のシートやふきんを敷き、食器類の飛び出しを防ぐ棧(さん)を付ける。扉は、開かないように留め金具を付け、ガラスには、飛散防止フィルムを貼る。





●非常持ち出し品のチェック項目

飲料水・水筒	一人1日3ℓが目安。2～3日は自力で生活することを考えて。
食料品	缶詰・ビスケット・チョコレート・インスタントラーメン（赤ちゃんのいる家庭は、粉ミルク・ほ乳びん）など。
医薬品	消毒薬、傷薬、胃腸薬、脱脂綿、ばんそうこう、包帯など。
貴重品	現金のほか、預金通帳や印鑑など。
ヘルメット・防災ずきん	落下物から頭を保護するものを、すぐ取り出せるように。
手袋	ガレキの撤去や救助に、軍手などの厚手のものを用意。
マッチ・ライター	湿気やガス切れに注意。防水マッチなども市販されている。
ろうそく	濡れないように、ビニール袋に入れて保管する。
懐中電灯	夜間、すぐに手が届くところにも置いておく。
ラジオ	情報収集に欠かせない。懐中電灯と一体型のものもある。
乾電池予備	ラジオや懐中電灯に使用するものを多めに。
衣類	セーター・ジャンパー・下着など。雨具やタオルも用意。
毛布	寝袋や、体温を逃がさないサバイバルシートなども重宝。
ナイフ・缶切り	十徳ナイフなどの多機能ナイフが便利。

※定期的に保存状態や使用期限を点検し、新しいものと取り替えましょう。

(3)非常持ち出し品のチェックをしましょう
家族構成を考えながら、必要な品がそろっているかをチェックしてみましょう（左表参照）。

(4)災害時の連絡方法や、避難場所の確認をしておきましょう
家族が離ればなれになったときの連絡方法や、避難場所を確認しておきましょう。



火の始末などをする
揺れが小さいときは、直ちにガスなどの火を消し、電気

身の安全を守る
大きな揺れが続くのは、せいぜい一分間程度。急いでテーブル、机、ふとんなどの下にぐりましょう。慌てて外に飛び出さないことが大切。

地震発生！

最初の一分間は、身の安全確保が第一。慌てないで、冷静に行動しましょう。

地震発生!! そのときどうする？

また、避難コースの危険個所についても話し合い、できれば休日などを利用し、家族で下見をしておきましょう。



器具のコンセントを抜くとともにブレーカーも切りましょう。揺れが大きいときは、揺れがおさまってから行動を。

脱出口を確保する

ドアや窓が変形して開けなくなることがあるので、揺れの合間をみてドアや窓を開けて、逃げ道を確保しておきましょう。

危険なときは避難する

避難指示があったときは、急いで避難しましょう。指示がなくても、激しい揺れで家具が倒れるなどの危険を感じたときや、火災が発生して初期消火ができなかったときは、直ちに避難してください。

正しい情報を集める

災害時には誤った情報が流れることがあります。その後の対処を間違わないためにも、ラジオなどで正しい情報入手するようにしてください。



今だからこそ、 あなたの地域に 自主防災組織を！

大地震などの災害が発生した場合、電話の不通、火災の同時多発などの悪条件が重なり、消防署などの行政機関だけでは対応できない状態になるのは間違いありません。

個人がバラバラに動いても、一人の力には限界があり、かえって危険に見舞われる場合もあります。

このようなとき、家族はもちろんのこと、地域の皆さんが協力し合って災害に対処する組織（自主防災組織）が重要となります。

阪神・淡路大震災では、地域住民が協力し合って初期消火をした事例や、救助活動で多くの人命を救った事例などが多数見られ、地域の自主的な防災活動の大切さが改めて確認されました。

自主防災組織のモデルケースとして、泉町久尻区の取り組みをご紹介します。

泉町久尻区の 取り組み



泉町久尻区は、今年の一月に、自主防災組織を正式に発足しました。

現区長の山村誠司さんにお話を伺いました。

●組織をつくるためにかかった期間などは？

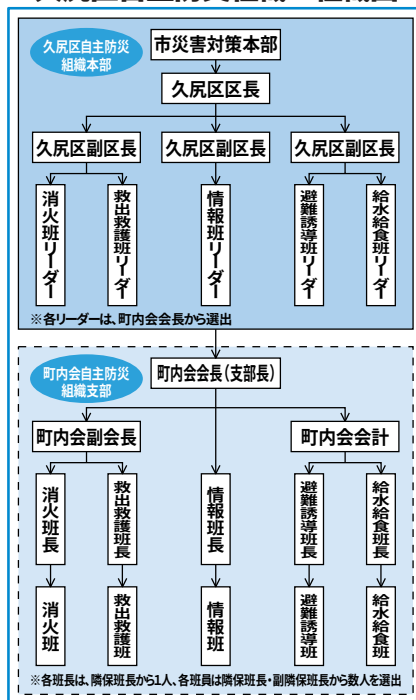
準備には、およそ半年間かかりました。月に二回、町内会長以上の役員が集まり、資料を持ち寄って話し合いました。

区内には住民が何人住んでいるのか、避難所は何人収容できるのか、各町内が持つ救急に関する備品・器材の状況、井戸の有無など



山村誠司 久尻区 区長

久尻区自主防災組織・組織図



をこと細かく調べました。

組織として、各町内が動き

やすい組織づくり（右図参照）

を心掛けました。

●今後の課題は？

区民のさらなる意識向上が課題だと思っています。

具体的な取り組みとして、

六月には、各町内会長さんに

町内の消火設備の再点検をお

願いしました。七月には、心

肺蘇生法を習得するための普

通救命講習を、役員の皆さん

で受講しました。今後、女性

部の皆さんも受講する予定で

す。また「地震体験車」を使

って、区民の皆さんに地震の

震度を体感していただきまし

た。さらに九月には、実際

にこの組織を使った防災訓

練を実施する予定です。

「自分の命は自分で守る、

自分たちの地域は自分たち

で守る」という意識が、最

も大切だと思っています。



皆さんの地域でも、自主

防災組織を自分たちの手で

つくってみませんか。

自主防災組織に関するこ

とは、北消防署（☎01

19）・南消防署（☎0

119）へ、防災全般に関

することは、市役所総務課

（内線224）へどうぞ。

